

厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）
分担研究報告書

大学連携における好事例ロールモデル集作成

研究分担者	三沢あき子	京都府乙訓保健所・京都府立医科大学 医療センター
	細井 創	京都府立医科大学 医療センター
	渡邊 能行	京都府健康福祉部 京都府立医科大学 地域保健医療福祉行政システム学
研究協力者	宇田 英典	全国保健所長会
	東 あかね	京都府立大学 生命環境科学研究科
	弓削マリ子	花ノ木児童発達支援センター
	高木 智久	京都府立医科大学附属北部医療センター

研究要旨 大学連携に基づく公衆衛生分野への医師派遣や人事交流を検討している自治体や医育機関の医師への先行事例に関する情報提供を目的として、自治体と医育機関である大学の連携モデルである京都府立医大医療センターにおける好事例をまとめ、ロールモデル集を作成した。公衆衛生医師への一方向性のみではなく双方向性のキャリアを有するロールモデルは、医師としてのキャリアも保健所勤務となる契機も多様であったが、各々のキャリアにおいて行政・地域保健・公衆衛生従事経験は重要な位置づけがあり、前向きなキャリアビジョンにつながっていた。

A．研究目的

大学連携に基づく公衆衛生分野への医師派遣や人事交流を検討している自治体や医育機関の医師への先行事例に関する情報提供を目的として、自治体と医育機関である大学の連携モデルである京都府立医大医療センターにおける好事例をまとめ、冒頭に京都府立医大医療センターの説明を加え、ロールモデル集を作成した。

B．研究方法

京都府立医科大学医療センター調査及びヒアリング調査の結果、京都府立医科大学医療センター人事で、主に保健所において活躍した4ケースをロールモデルとして抽出した。下記5項目に関して2次調査を実施し、記載内容に基

づき、ロールモデル集を作成した。

行政・公衆衛生分野に進んだときの理由
保健所で取り組んだこと
保健所・公衆衛生医師のやりがいと魅力
現在・今後のビジョンとライフワーク
後輩へのメッセージ

C．結果：

4 ロールモデルのキャリアと行政・公衆衛生経験に関するメッセージの主旨は下記のとおりであった。

内科臨床 3 年→公衆衛生学教室 12 年→**保健所3年**→府立大学教授（専門：予防医学、公衆栄養学）

「保健所という公衆衛生の第一線の現場での経験は、今も大きな財産である」

小児科臨床→保健所 5 年→小児科臨床 9 年
→看護教育 8 年→保健所 14 年→定年退職
後、児童発達支援センター

「関係者皆と共に情熱を持って取り組んでいくことに、とてもやりがいを感じた」

内科臨床 14 年→京都府健康福祉部 / 総括
産業医 5 年→保健所 2 年→内科臨床

「創造的な地域づくりに関わることは、臨床
医では得られないかけがえのない経験
であった」

小児科臨床 16 年→保健所 8 年目

「臨床経験やそれまでの信頼関係やつな
がりは地域保健でも大きな力になる」

D . 考 察

公衆衛生医師は、職場において少数・単独職
種であることが多く、ロールモデルが見えない
ことが多い。公衆衛生医師同士のネットワーク
作りがモチベーションの維持につながると推
察されおり¹⁾、全国保健所長会等においてはパ
ンフレット作成²⁾などの取り組みも行われて
きた。

本研究においては、公衆衛生医師への一方向
性のみではなく、大学連携に基づく、双方向性
のキャリアを有する実在のロールモデルを抽

出した。医師としてのキャリアも保健所勤務と
なる契機も様々であったが、多様なキャリアの
中において、行政・地域保健・公衆衛生従事経
験の重要な位置づけがあり、前向きなキャリア
ビジョンにつながっていた。社会医学系専門医
制度の創設により自治体や大学による人材育
成が充実し、行政・公衆衛生医師の「経験」か
らやりがいやモチベーションを基に「継続」し
ていく医師の増加が期待される。

E . 結 論

本ロールモデル集が、自治体と大学連携を進
め、また、様々なバックグラウンドをもつ医師
が地域保健・公衆衛生に興味を持ち、「経験」
の一步につながることを祈念する。

【参考文献・資料】

- 1) 北川信一郎. 公衆衛生医師の熟達と学習経
験に関する探索的研究. 医学教育 44:
227-235, 2013.
- 2) 公衆衛生医師募集 1 億 2000 万人の^{いのち}生を
まもる医師. 全国保健所長会.
[http://www.phcd.jp/02/j_ishiboshu/pdf/pa
nf_2016.pdf](http://www.phcd.jp/02/j_ishiboshu/pdf/pa
nf_2016.pdf)